

朝鮮人漂着

마즈마이

330年記念シンポジウム

―北の海をめぐるアイヌと朝鮮の出会い―

一六九六年に李志恒ら朝鮮人が北海道に漂着した出来事から、今年で三三〇年となります。本シンポジウムでは、この漂着事件を手がかりに、当時の日本と朝鮮の関係、北海道の地域社会、アイヌの交易活動、人びとの文化交流を捉えます。さまざまな立場や分野からこの漂着事件を読み解き、北の海がつなぐ交流の歴史をたどります。

会場 国立アイヌ民族博物館
1階交流室
(北海道白老郡白老町若草町2-3-1)

参加費 無料
※ウボボイの入場料が別途かかります

定員 100名(当日受付・先着順)

日朝関係と漂流民	【第1部】	10:00	開会の挨拶
		10:10	基調講演 漂流・漂着から見る近世の日朝関係 池内 敏(名古屋大学 名誉教授)
		11:10	報告① 朝鮮漂流民の日本認識―李志恒の漂舟録を中心に― 河 宇鳳(全北大学校 名誉教授)
		11:40~13:00	休憩
北海道を舞台とした交流	【第2部】	13:00	報告② 朝鮮人漂着事件をめぐる松前藩の記録 シン ウオンジ(国立アイヌ民族博物館 研究員)
		13:30	報告③ 漂着記録にみる利尻・礼文の地名と景観 山谷 文人(利尻富士町教育委員会 学芸係長)
		14:00	報告④ 李志恒「漂舟録」に記されている漂着蝦夷地の「モノ」 西谷 榮治(元利尻町立博物館 学芸課長)
		14:30~14:50	休憩
		14:50	報告⑤ 朝鮮漂流官人李志恒と松前阿吽寺僧釈智潤の唱酬詩について 泊 功(函館工業高等専門学校 教授)
		15:20	報告⑥ 李志恒が見た北海道北部のアイヌの人たち 中村 和之(函館大学 教授)
		15:50~16:10	休憩
		16:10	総合討論 北の海がつなぐ歴史と文化
		16:50	閉会の挨拶

2026.
9.13 日
10:00~17:00
(9:30開場)

朝鮮人が漂着した地、蒼天にそびえ立つ「泰山」・利尻島(写真提供:西谷榮治氏)

※「마즈마이」(松前)と「앙그람에」(イランカラブテに相当すると推定される語)は、「漂舟録」に記された語です。出典:『海行摺載』(韓国国立中央図書館)

主催:国立アイヌ民族博物館 後援:駐札幌大韓民国総領事館



NATIONAL AINU MUSEUM
国立アイヌ民族博物館



本事業はJSPS科研費
25K04414の助成を
受けたものです。